

第2章 豊川市の環境を取り巻く現状と課題

1 豊川市の環境の現状

(1) 市の概要

本市は、愛知県南東部に位置し、市域面積 161.14km²、人口 183,767 人（平成 31（2019）年 4 月 1 日現在）の東三河の中心的都市です。

自然的条件は、市の北部から西部にかけて森林が広がり、東部には国内有数の清流である豊川が流れ、中央部に沖積台地、南部に沖積平野が広がり、南西部は三河湾に面しており、山・川・海の豊かな自然に恵まれています。気候は、太平洋岸式気候に属し、温暖で過ごしやすい地域です。

社会的条件は、名古屋市から約 60km、豊橋市の中心地から約 8km の距離にあり、東名高速道路、国道 1 号・23 号・151 号などの幹線道路や JR 東海道本線・飯田線、名鉄名古屋本線・豊川線と JR 東海道新幹線が通っており、交通の要衝として重要な位置を占めています。

恵まれた自然環境

- 市域の北側は本宮山、西側に宮路山などの山々が連なり、中央部から南に平野が広がり、東側は一級河川の豊川が流れ、南側は三河湾に面するなど、山、川、海といった豊かな自然環境から形成されています。
- 山麓には森林が広がり、中でも本宮山一帯は県立自然公園に指定され、自然に親しみながら登山やウォーキングを楽しむことができます。市域の中央部には、淡水魚や動物とふれあえる「赤塚山公園」、西部には、身近な草木にふれあえる「東三河ふるさと公園」や紅葉が美しい宮路山があります。また、河川に沿った地域や海岸部は、緑と水が豊かな自然環境が広がるエリアとして、市民の暮らしに潤いをもたらしています。

豊かな歴史と文化

- 全国的に有名な豊川稲荷は、毎年初詣の参拝客でにぎわい、年間を通して多くの観光客が訪れています。また、砥鹿神社は、里宮とともに本宮山山頂にある奥宮の二社で三河國一宮砥鹿神社として広く人々に崇拝されています。このほか、国の天然記念物である「御油のマツ並木」、東海道の御油宿と赤坂宿、史跡公園の三河国分尼寺跡や伊奈城趾、国の重要文化財である三明寺三重塔や財賀寺仁王像など、豊川市の歴史を物語る観光名所が数多くあります。
- 歴史的文化遺産としては、他にもたくさんの祭礼や地域独自の伝承文化があり、時代を越えて現代へ受け継がれています。

活力ある産業

- 本市の農業は、温暖な気候など地域特有の自然環境に恵まれ、施設園芸を中心に発展してきました。また、地理的条件を生かし、都市圏へ農産物を供給する基地の一翼を担う重要な位置を占めています。
- 工業は、海軍工廠の広大な跡地に開発された穂ノ原工業団地、西部の萩工業団地、臨海部の御津1区、2区工業団地などで、数多くの優良な企業が操業し、雇用や地域経済を力強く支えています。
- 商業は、豊川、一宮、音羽、御津、小坂井といった合併前の市街地ごとに商店が集まり、それぞれの地域住民の生活を支えながら発展してきました。たくさんの観光客が訪れる豊川地区など各地域が主体となって独自性と魅力を高めています。

利便性の高い幹線道路と鉄道

- 本市は、道路と鉄道により東三河地域の結節点を形成しています。道路では、東名高速道路が東西に横断し、市の東に位置する豊川インターチェンジと西に位置する音羽蒲郡インターチェンジが物流や観光の玄関口となっています。鉄道は、市内に19もの鉄道駅を有し、南部をJR東海道本線、東部にJR飯田線、中央部に名鉄名古屋本線が走ることで、市外の各市との交通の利便性を高めています。

広域における連携

- 本市は、長年にわたって、東三河地域の中核都市として地域で共通する様々な広域的課題の解決に取り組んでいます。中でも、本市を含む東三河の8市町村は、東三河広域連合を設立し、介護保険や消費生活相談などに関する事務事業を進めており、今後も様々な連携による地域力の向上が期待されています。
- また、東三河、静岡県遠州、長野県南信州地域で構成する三遠南信地域の一員として、観光や地域経済の振興、災害時の応援体制などで連携し、一体的な圏域の発展を目指しています。



■佐奈川の桜と菜の花



■御油のマツ並木

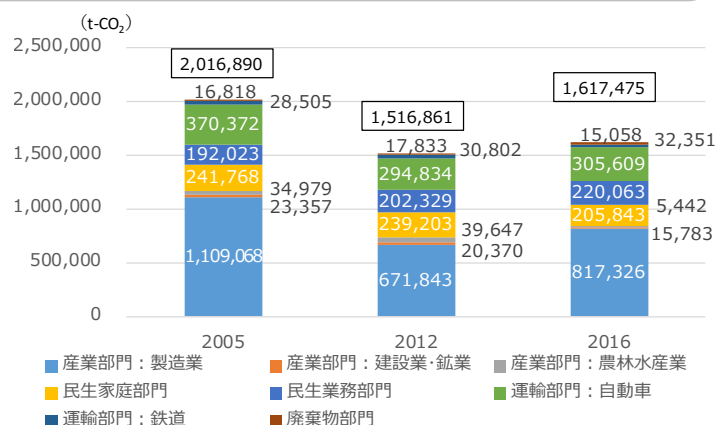
(2) 分野別の環境の現状

<低炭素社会>

民生業務部門及び運輸部門における CO₂ 排出量を削減する必要があります。

2016 年度の市域からの CO₂ 排出量は 1,617,475t-CO₂ であり、前計画策定時(2005 年度)からは 399,415t-CO₂ 減少しているものの、見直し時(2012 年度)からは 100,614t-CO₂ 増加しています。

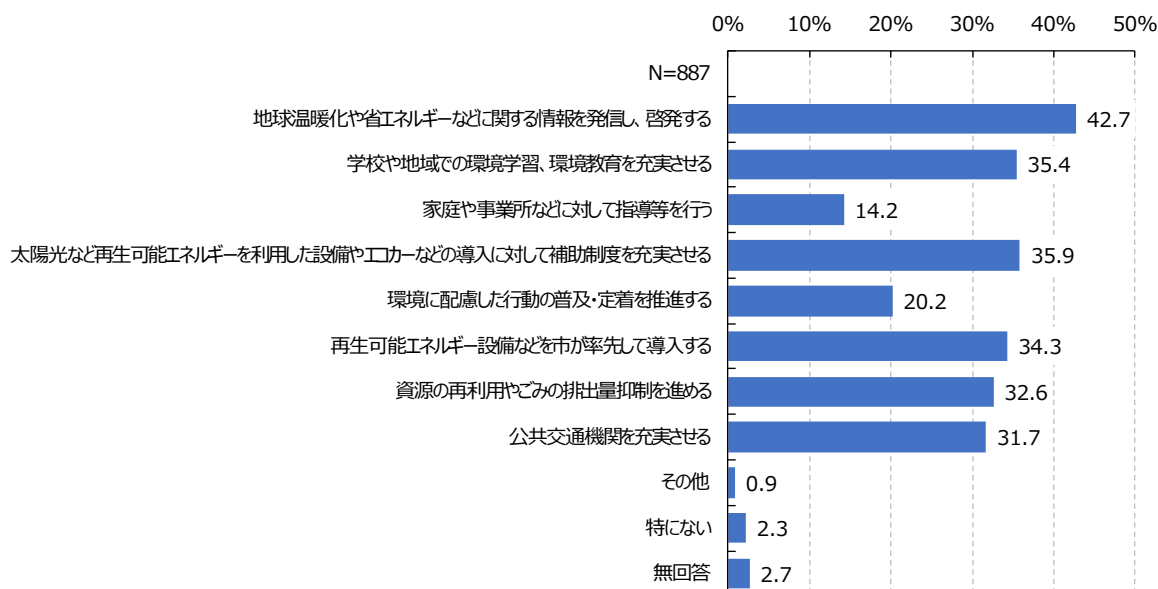
部門別にみると、民生家庭部門は減少傾向にあるものの、民生業務部門は増加傾向、運輸部門は下げ止まりとなっています。



■市域からの部門別 CO₂ 排出量の推移

地球温暖化対策に関する情報提供、環境教育を充実させる必要があります。

平成 30 (2018) 年 11 月に実施した「次期豊川市環境基本計画策定に向けたアンケート調査」(以下、「アンケート調査」という。)の結果から、8 割以上の市民が地球温暖化に対して関心があると回答しています。また、市が取り組むべき施策としては、「地球温暖化や省エネルギーなどに関する情報を発信し、啓発する」が 42.7%と最も高く、次いで「太陽光など再生可能エネルギーを利用した設備やエコカーなどの導入に対して補助制度を充実させる」が 35.9%、「学校や地域での環境学習、環境教育を充実させる」が 35.4%となっています。



■地球温暖化対策を進めるために市が取り組むべき施策

太陽光発電の導入ポテンシャルが高くなっています。

平成 30 (2018) 年度にとりまとめた「再生可能エネルギー事業検討報告書」では、市域においては太陽光発電の導入ポテンシャルが他の再生可能エネルギーと比べて比較的高いと報告されています。また、自家消費による事業モデルとして、公共施設における太陽光発電設備の導入が提案されています。

<生物多様性>

豊かな自然環境に恵まれています。

市域の北側は本宮山、西側に宮路山などの山々が連なり、中央部から南に平野が広がり、東側は一級河川の豊川が流れ、南側は三河湾に面するなど、山、川、海といった豊かな自然環境から形成されています。

持続可能な社会の形成には健全な生態系が必要です。

右図のように、持続可能な開発目標（SDGs）において、目標 14 と 15 という生態系関連の 2 つに、目標 13 の気候変動、目標 6 の水関連の 2 つを加えた「生物圏」に関連する 4 つの目標が、その他の目標達成の基礎になるという考え方があります。

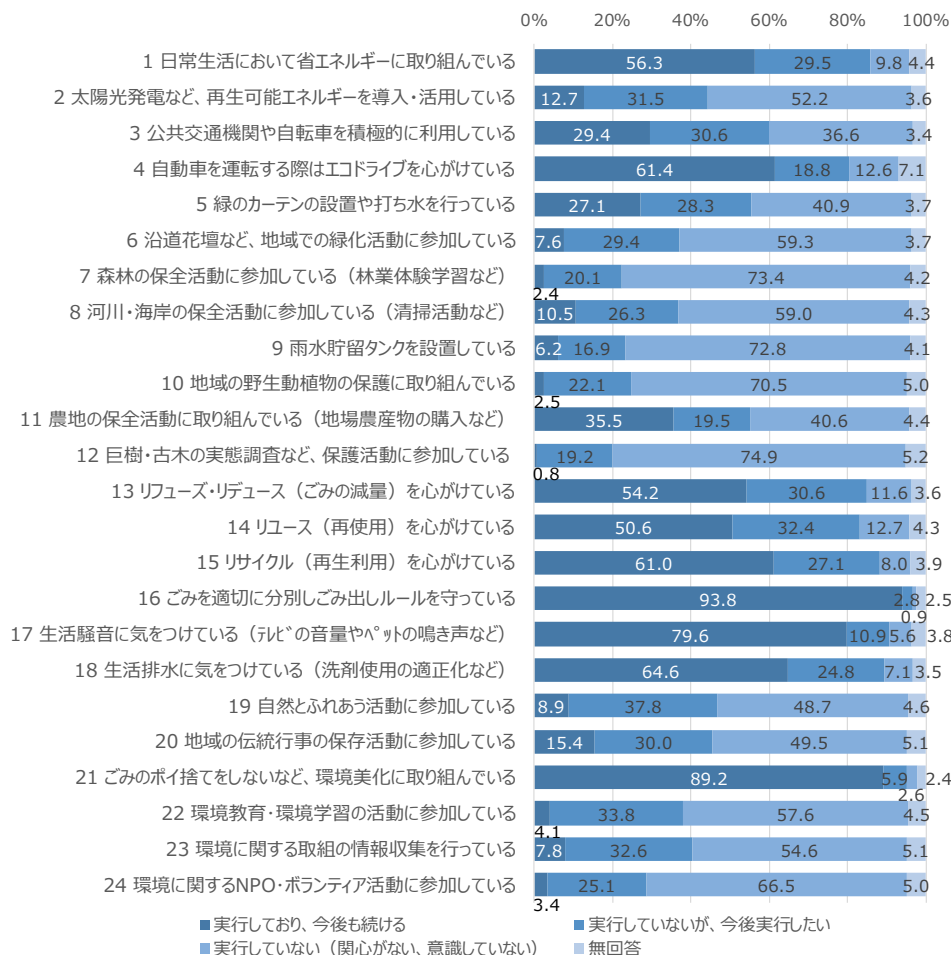


■SDGsのウェディングケーキモデル

資料：Stockholm Resilience Centre

市民の自然共生分野に対する関心が低くなっています。

アンケート調査の結果から、市民の方々が「環境保全の取組として実行していない（関心がない、意識していない）」と回答したものは、「12 巨樹・古木の実態調査など、保護活動に参加している」が 74.9%、「7 森林の保全活動に参加している（林業体験学習など）」が 73.4%、「9 雨水貯留タンクを設置している」が 72.8%、「10 地域の野生動植物の保護に取り組んでいる」が 70.5%となっており、自然共生分野の取組状況が低くなっています。



■実行している環境保全の取組

<循環型社会>

市民1人1日当たりごみ排出量は県内市平均を上回っています。

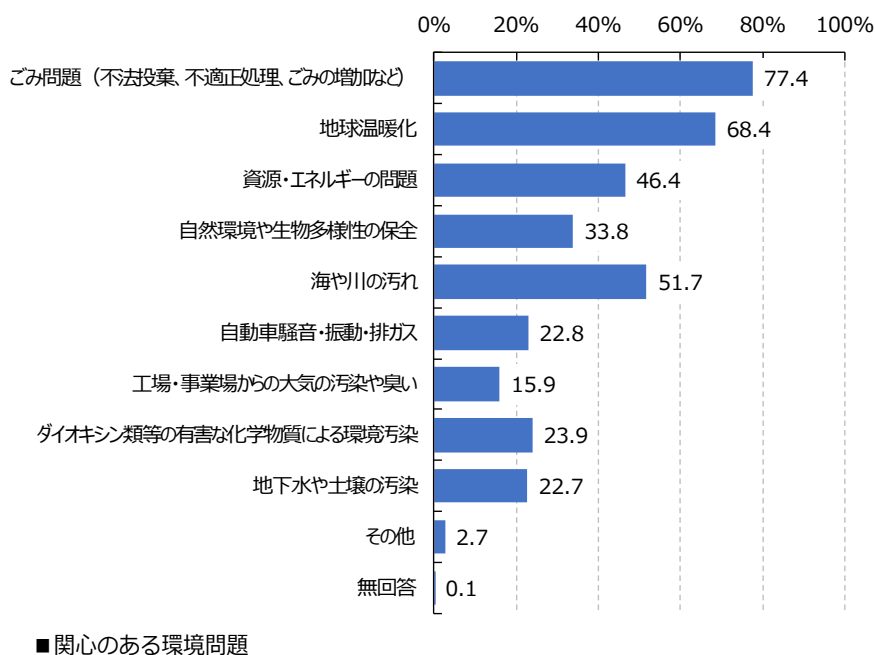
家庭系ごみ排出量は、平成27(2015)年度から平成29(2017)年度にかけて減少していましたが、平成30(2018)年度には増加しています。事業系ごみ排出量は、平成27(2015)年度から平成29(2017)年度にかけて増加していましたが、平成30(2018)年度には減少しています。

家庭系ごみと事業系ごみを合わせた1人1日当たりごみ排出量は減少傾向にあるものの、県内市平均を上回っています。

市民のごみ問題への関心が高くなっています。

アンケート調査の結果から、関心のある環境問題では、「ごみ問題(不法投棄、不適正処理、ごみの増加など)」が最も多く挙げられました。

また、現在実行している環境保全の取組としてはごみの適正な排出やポイ捨てをしないとといった取組が圧倒的に高く、環境基本計画における環境目標でも「ごみを適正に処理しよう」の重要度が最も高くなっています。



焼却施設の広域化への対応が必要です。

県の「愛知県ごみ焼却処理広域化計画」を受け、平成24(2012)年3月に「東三河ごみ焼却施設広域化計画」を策定しています。市民が安心でき、安全で環境に配慮した適正な施設となるよう、東三河地域広域化ブロック構成市町村と連携を図りながら、広域化のあり方について検討します。

<住みよさ>

大気・水質・騒音をはじめとする環境基準は一部で未達成となっています。

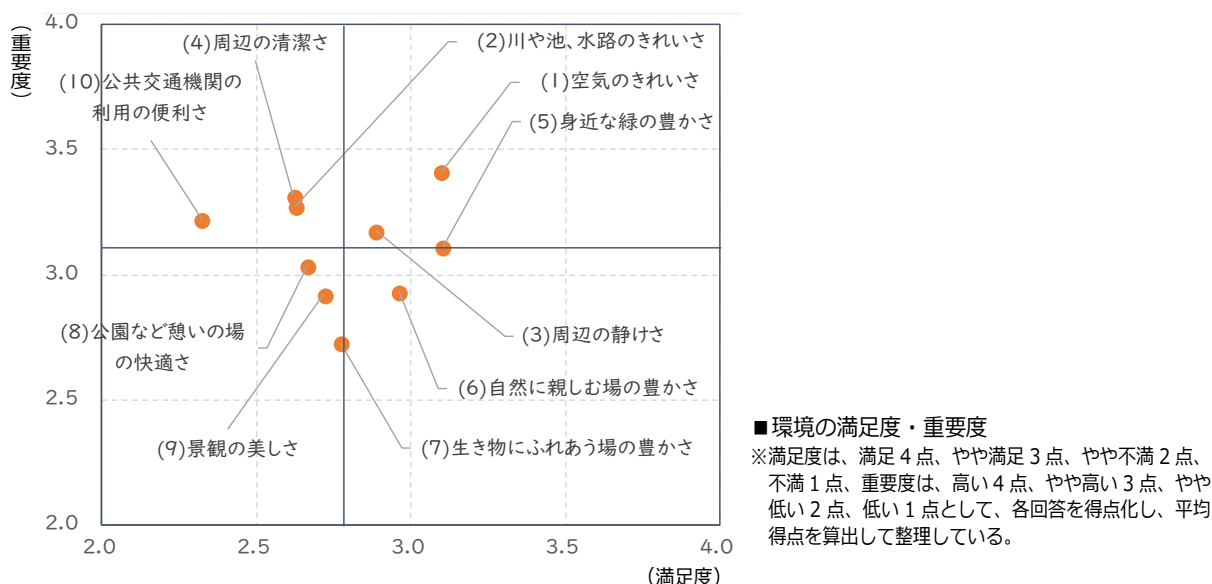
大気では、光化学オキシダントを除く全ての物質で環境基準を満たしています。佐奈川・音羽川・豊川の水質、環境騒音も環境基準を満たしています。一方、光化学オキシダントや自動車騒音は環境基準を達成していません。

大気汚染や悪臭に関する公害苦情件数が多くなっています。

公害苦情件数は年間およそ 100 件程度あり、大気汚染に関するものが多く、そのほとんどが野焼きに対する相談です。また、近年は悪臭に関する相談も増えています。

水辺のきれいさ／川や池、水路のきれいさ／周辺の清潔さの重要度が高くなっています。

アンケート調査の環境の満足度・重要度を得点化し、平均得点を算出して整理した結果から、「空気のきれいさ」、「川や池、水路のきれいさ」、「周辺の清潔さ」といった生活環境に関する項目の重要度が高くなっています。特に、「川や池、水路のきれいさ」、「周辺の清潔さ」については、満足度も低くなっています。



歴史的資源に恵まれています。

豊川市には、年間 5 百万人の参拝客が訪れる日本三大稲荷とされる豊川稲荷のほか、国の指定文化財として旧東海道的面影を残す御油のマツ並木をはじめ、三河国分寺跡、三河国分尼寺跡、三明寺の三重塔、財賀寺の仁王門、法住寺の木造千手観音立像、大恩寺の絹本著色王宮曼荼羅図などがあり、多くの歴史的資源が保存されています。



■御油のマツ並木



■三河国分尼寺跡史跡公園

＜参加と協働＞

年間を通じて環境学習会等の啓発事業を開催しています。

地球温暖化防止、生活排水対策、生物多様性を題材とした環境出前講座の開催や、小学生を対象としたエコチャレンジ・カレンダー、夏休み期間中のこども環境体験ツアーなど、環境学習会等の啓発事業を、年間を通じて開催しています。今後は、市民の関心の高いテーマ設定やターゲットを絞った開催などにより、より多くの人に参加してもらえるような工夫が必要です。



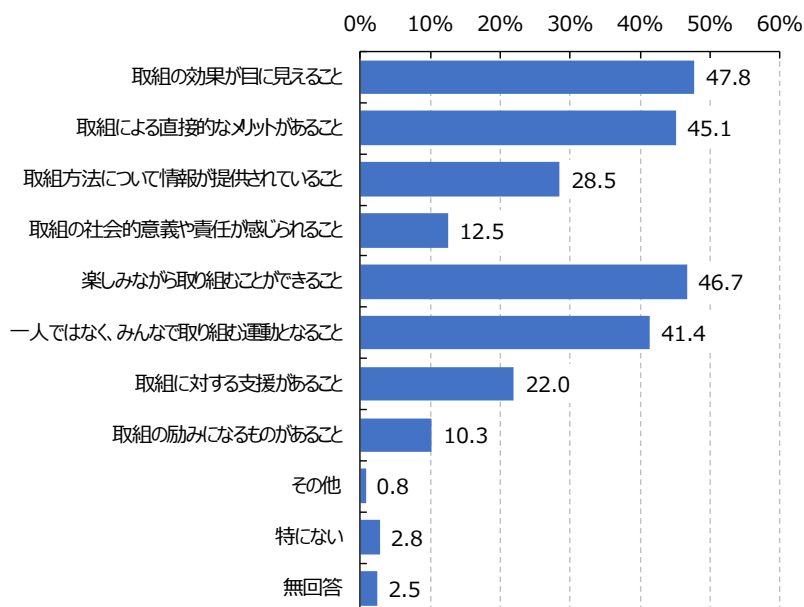
■子ども環境体験ツアー（音羽川水生生物調査団）

「自分のこと」として考え、行動できる人を育てる必要があります。

持続可能な社会の実現を目指し、市民一人ひとり、個々の事業者が、今日の環境問題を「自分のこと」として捉え、分野や主体、世代を超えて、その解決に向けて主体的に行動できる人づくり・人の輪づくりを進めるため、ESD（持続可能な開発のための教育）の普及促進、環境教育の深化・充実を図る必要があります。

取組の効果が目に見える、楽しみながら取り組める環境活動の普及が重要です。

アンケート調査において、現在は実行していないものの、今後実行したいと回答した環境保全の取組として、「自然とふれあう活動」、「環境教育・環境学習の活動」、「環境に関する取組の情報収集」などがありました。また、より積極的に行うために必要なこととして、「取組の効果が目に見えること」、「楽しみながら取り組むことができること」、「取組による直接的なメリットがあること」、「一人ではなく、みんなで取り組む運動となること」という回答が多くなっています。



■環境保全の取組を積極的に行うために必要なこと

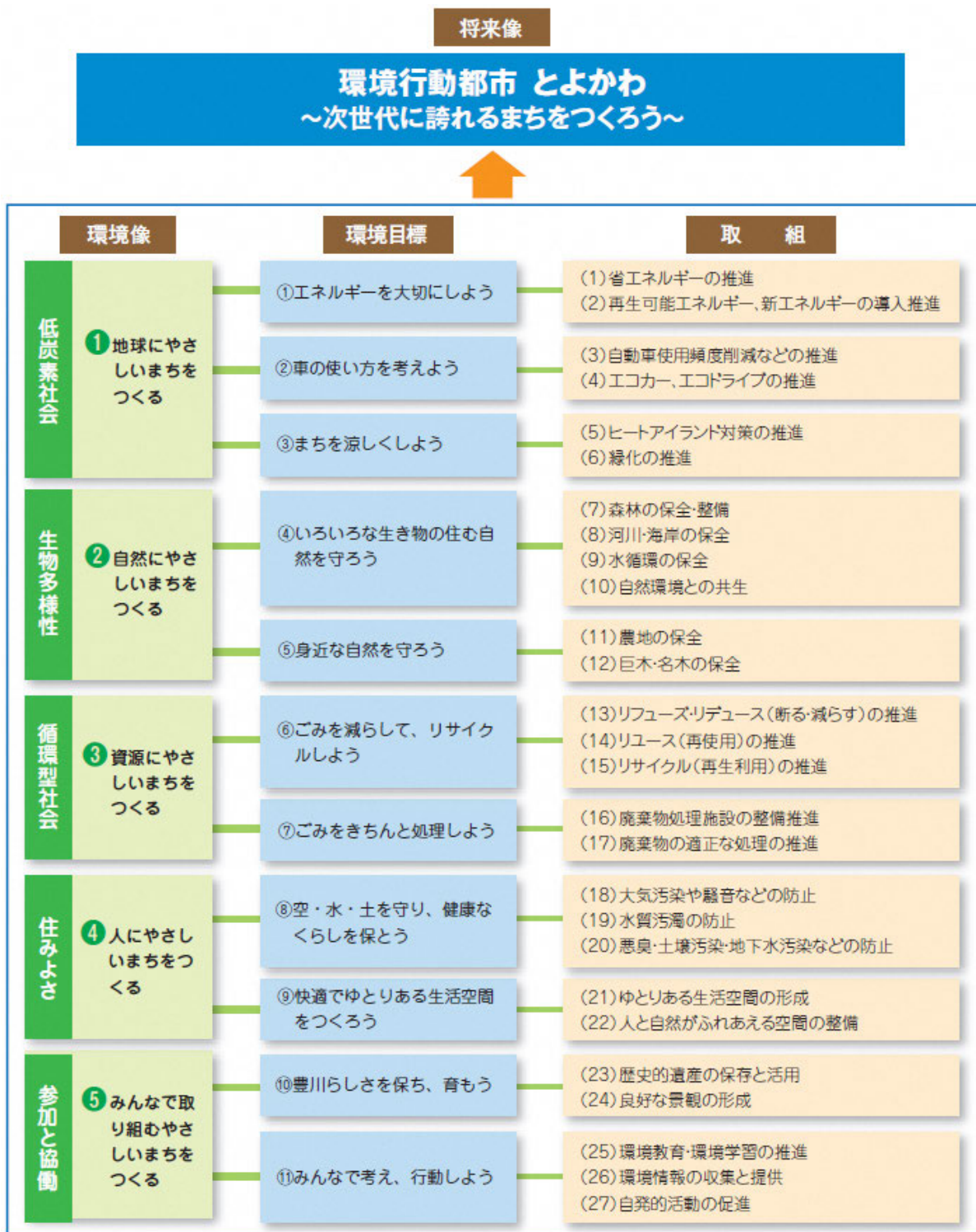
「豊川市環境基本計画」の認知度が低くなっています。

アンケート調査において、豊川市環境基本計画について「知らない」という回答が市民で約7割、事業者で約6割という結果でした。市の取組だけでなく、市民や事業者の役割についても記載している計画の認知度を高めることは、意識や行動を転換していく上で非常に重要です。

2 前計画の評価

(1) 前計画の概要

前計画は、将来像の実現に向けて、環境行政の究極目標である持続可能な社会を構成する「低炭素社会」「生物多様性」「循環型社会」「住みよさ」「参加と協働」の5つの分野毎に環境像を設定し、11の環境目標と27の取組を設定しています。



■前計画の取組の体系図

(2) 前計画の評価結果（環境指標の達成状況）

<低炭素社会：地球にやさしいまちをつくる>

温室効果ガス排出量は、民生家庭部門では目標には達していないものの着実に減少しており、太陽光発電システムの設置も進んでいます。目標達成には民生業務部門及び運輸門での対策強化が重要です。運輸部門では、低燃費車等の普及を進めるとともに、エコドライブの推進や公共交通機関の利便性向上など、環境に配慮した移動手段・方法の普及を図る必要があります。

環境目標	環境指標	当初値 (2013 年度)	目標値 (2019 年度)	現状値 (2017 年度)
① エネルギーを大切にしよう	豊川市地球温暖化対策実行計画 区域施策編による市域からの温室効果ガス排出量	【全体】 1,516,861t-CO ₂ 【家庭部門】 239,203t-CO ₂ (2012 年度)	【全体】 1,448,551t-CO ₂ 【家庭部門】 217,698t-CO ₂	【全体】 1,617,475t-CO ₂ 【家庭部門】 205,843t-CO ₂ (2016 年度)
	太陽光発電システム設置基数	3,638 基(累計) (28,600kW)	5,000 基(累計) (35,000kW)	6,500 基(累計) (73,500kW)
② 車の使い方を考えよう	「公共交通機関の利便性」市民満足度	43.4%	50.0%	39.3% (2019 年度)
	公用車における低公害車の割合	62.7%	80.0%	75.0%
③ まちを涼しくしよう	街区公園の箇所数	85 箇所	90 箇所	88 箇所 (2016 年度)

<生物多様性：自然にやさしいまちをつくる>

森林面積や河川の水質・水生生物の生息環境は維持されています。自然環境調査への参加者数も、目標には達していないものの増加しています。

一方、身近な自然環境である農地面積は、農家・農業従事者の減少も相まって、減少傾向にあります。「緑・自然の豊かさ」に関する満足度も微減しており、こうした環境の保全・活用も必要です。

環境目標	環境指標	当初値 (2013 年度)	目標値 (2019 年度)	現状値 (2017 年度)
④ いろいろな生き物の住む自然を守ろう	森林面積	5,856ha (2012 年度)	現状維持	5,789ha (2014 年度)
	河川の水生生物	豊 川：水質階級Ⅰ 佐奈川：水質階級Ⅱ 音羽川：水質階級Ⅰ	豊 川：水質階級Ⅰ 佐奈川：水質階級Ⅱ 以上 音羽川：水質階級Ⅰ	豊 川：水質階級Ⅰ 佐奈川：水質階級Ⅱ 音羽川：水質階級Ⅰ
	「身近な自然環境調査」市民参加者数	675 名(累計)	1,500 名(累計)	1,415 名(累計)
⑤ 身近な自然を守ろう	「緑・自然の豊かさ」市民満足度	80.1%	82.0%	79.9% (2019 年度)
	民有農地面積	3,794ha (2012 年度)	3,750ha	3,702ha (2015 年度)

<循環型社会：資源にやさしいまちをつくる>

市民1人1日当たりごみ排出量は、減少傾向にあるものの目標には達しておらず、ごみ処理費用も年々増加傾向にあることから、更なる取組の推進が必要です。また、そのうちの資源回収量も目標には達していませんが、市民の生活スタイルの変化による雑誌、新聞の減少や容器の軽量化、薄肉化も関係していると考えられます。

不法投棄年間件数も大きく減少しており、引き続き、市民・事業者の意識向上を図ることが重要です。

環境目標	環境指標	当初値 (2013年度)	目標値 (2019年度)	現状値 (2017年度)
⑥ごみを減らし、リサイクルしよう	市民1人1日当たりごみ排出量 (家庭系、事業系一般廃棄物)	1,056g	980g	1,016g
	上記のうち資源回収量	185g	330g	162g
⑦ごみをきちんと処理しよう	市民1人当たり年間ごみ処理費用	10,150円	9,400円	11,115円
	不法投棄年間件数	459件	300件	209件

<住みよさ：人にやさしいまちをつくる>

自動車騒音に関しては、国道1号線（新栄町3丁目）及び23号線（御津町下佐脇）で要請限度を超過しています。

公園や河川の状況に対する市民満足度を大きく高める目標を掲げていたものの、いずれも微減・微増となっています。

環境目標	環境指標	当初値 (2013年度)	目標値 (2019年度)	現状値 (2017年度)
⑧空・水・土を守り、健康な暮らしを保とう	環境基準（大気、騒音）	光化学オキシダント：未達成 環境騒音：達成 新幹線騒音：未達成 自動車騒音：未達成	全て達成	光化学オキシダント：未達成 環境騒音：達成 新幹線騒音：達成 自動車騒音：未達成
	佐奈川、音羽川の水質（BOD75%値）	佐奈川（前川橋） 4.2mg/l 音羽川（南田橋） 1.0mg/l	佐奈川（前川橋） 2.5mg/l 音羽川（南田橋） 1.0mg/l	佐奈川（前川橋） 2.8mg/l 音羽川（南田橋） 0.9mg/l
	生活排水処理率	88.3%	97.0%	92.7% (2018年度)
⑨快適でゆとりある生活空間をつくろう	「公園の状況」市民満足度	56.3%	65.0%	58.1% (2019年度)
	「河川の状況」市民満足度	48.4%	60.0%	50.4% (2019年度)

<参加と協働：みんなで取り組むやさしいまちをつくる>

いずれの環境指標も、当初値より増加はしているものの、目標値には達していない状況です。市民等意識調査の結果を踏まえ、楽しみながら取り組める、みんなで取り組める環境活動の普及や、豊川市環境基本計画に関する認知度向上に関する施策及び指標、目標値の設定が重要です。

環境目標	環境指標	当初値 (2013年度)	目標値 (2019年度)	現状値 (2017年度)
⑩豊川らしさを保ち、育もう	「地域の文化性の高さ」市民満足度	39.9%	50.0%	-
	アダプトプログラム登録団体	102 団体	150 団体	144 団体
⑪みんなで考え、行動しよう	環境講座の年間参加者数	1,380 名	2,000 名	1,845 名
	「豊川市清掃の日」参加者数	55,659 名	60,000 名	55,801 名
	市ホームページ環境部局アクセス数	5,275 件/年	10,000 件/年	8,743 件/年

【コラム 01】

エコチャレンジ・カレンダー

豊川市では、子どもたちが毎日の生活の中で自分たちができるエコを知り、目標を立てて行動できるよう、「エコチャレンジ・カレンダー」の取組を行っています。市内の小学 5 年生に配布し、毎月身近なことを中心に設定されるテーマに対してアイデアなどを考えてもらうことで、環境問題の意識向上を目指しています。

5月のエコチャレンジ・カレンダーの表紙と5月のテーマ「使わない照明はこまめに消そう」のページ。表紙には5月のカレンダーと「エコチャレンジ・カレンダー 2019」のロゴが掲載されている。5月のテーマページには、照明のイラストと「使わない照明はこまめに消そう」というメッセージが掲載されている。また、5月のエコチャレンジ・カレンダーの表紙には、5月のテーマ「使わない照明はこまめに消そう」が掲載されている。

エコチャレンジ・カレンダー2019 5月のテーマ「まちで見つけた「エコ」」のページ。このページには、5月のテーマ「まちで見つけた「エコ」」が掲載されている。また、このページには、5月のエコチャレンジ・カレンダーの表紙と5月のテーマ「使わない照明はこまめに消そう」のページが掲載されている。

今月のテーマ（2019年5月は「まちで見つけた「エコ」」）に対する子どもたちの回答は、ホームページで紹介しています。